

分娩期の助産診断・技術学 I

# 入院時（受け持ち時）の 情報の解釈



2026/5/12  
高橋

# 前回の復習

## ～分娩開始の判断をする～

# 事例

9月15日 現在の時刻は、9時30分です。

妊娠中から受け持っている城さりなさんが、30分前に来院しました。

主訴は「夜中3時くらいから張っている。段々痛みが強くなってきた」です。

バイタル測定、体重測定、内診、来院時CTGモニターは終了しています。

# 分娩開始を判断するために 妊娠経過表・パルトグラム・CTGモニター から得た情報は・・・

## CTGモニター所見

- ：陣痛周期7分、発作持続時間50～60秒、
  - ：胎児心拍数基線140bpm、基線細変動中等度  
一過性頻脈あり、一過性徐脈なし
- 波形レベル | reassuring

助産師基礎教育テキスト第5巻7 p97～102

胎児心拍数陣痛図の判定基準

胎児心拍数波形のレベル分類

胎児心拍数波形分類に基づく対応と処置

# 分娩開始を判断するために 妊娠経過表・パルトグラム・CTGモニター から得た情報は・・・

## 内診所見

：子宮口3cm、展退60%、St-2、硬度軟、位置中

【外来最終所見との比較】

子宮口2cm、展退50%、St-2、硬度中、位置中

：破水なし

：血性分泌物なし

# 分娩開始を判断するために さらに必要な情報は・・・

- ・ **視診**・・陣痛発作時と間欠時の産婦の様子
- ・ **触診**・・陣痛周期、発作持続時間、陣痛の強さ
- ・ **問診**・・「張りが10分以内で来るようになった時刻」  
痛くなり始めてからの陣痛の変化

# 観察項目

- ・ 視診（陣痛発作時と間欠時の産婦の様子）
  - ： 発作時会話が止まる。フーフーと呼吸
  - 間欠時には会話することができる
- ・ 触診（陣痛周期、発作持続時間、陣痛の強さ）
  - ： 7分周期、発作持続40～50秒、かっちりと硬い
- ・ 問診「規則的な張りが10分以内になった時間は」
  - ⇒ 3時くらいに何となく痛いなと思って目が覚めました。その後もうとうとは眠れていましたが、5時くらいからは、間隔も10分以内になって、痛みが強くなったので夫を起こしました。
- ・ 問診「痛くなり始めてからの陣痛の変化は」
  - ⇒ 段々痛くなってきています。腰が痛い。

# 集めた情報から分娩開始かどうかの判断

分娩は開始している

- ・ 城さんは、5時ごろから10分以内の規則的な陣痛が続いている。
- ・ 5時から4時間30分経過した現在、陣痛間歇は6分と短縮し、痛みも強くなってきている。
- ・ 内診所見も、妊婦健診時から子宮口開大および子宮頸管の熟化が進んでいることから、今後も分娩の進行が継続されると考える  
分娩開始時間は5時とする。

# 分娩開始の定義

- ・ 規則正しく発来し、胎児娩出まで続く陣痛が10分以内の周期もしくは1時間に6回の頻度になった時点

## マタニティ診断での「分娩が開始している」

- ・ 規則的な陣痛が継続し、**分娩進行が予測される状態**

⇒ 10分を切ったから陣痛発来ではない。

陣痛の強さの変化や産婦の様子、

内診所見を踏まえて考えることが重要

# 分娩開始の判断に必要な観察項目

- ・ **視診** ・ 陣痛発作時と間欠時の 産婦の様子
- ・ **触診** ・ 陣痛周期、発作持続時間、陣痛の強さ
- ・ CTGモニター所見 ・ 陣痛情報の補助
- ・ **問診** ・
  - ・ 「張りが10分以内で来るようになった時刻」
  - ・ 痛くなり始めてからの陣痛の変化
  - ・ 血性分泌物や破水感の有無
- ・ **内診** ・
  - ・ 入院時内診所見と外来最終所見との比較
  - ・ 血性分泌物の状態、破水の有無